



修徳橋

〈笑顔 元気 想像・創造〉

令和8年 9月7日 No.8

市川三郷町立六郷小学校学校だより
市川三郷町岩間 2917
電話：0556-32-2004
<http://www.rokugo-sho.ed.jp/>
発行・文責 校長 望月 基希



全国学力・学習状況調査結果について

全国学力・学習状況調査が、4月23日(木)に全国の小中学校で一斉に実施されました。本校でも6年生の児童が参加し、国語・算数の2教科についての調査を実施しました。この調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることと、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

本校でも結果発表後すぐに調査結果の分析を行い、8月の校内研究会において全教職員で確認し、2学期から全校体制で指導改善の取組を始めています。分析結果の概要をお伝えします。

六郷小の平均正答率の傾向は次の通りです。
国語：全国と山梨県の平均を大きく上回る
算数：全国の平均をやや下回り、山梨県の平均をやや上回る。

以下に全国・県平均との比較をもとにした考察を載せました。

Ⅰ 調査問題から見る本校の成果と課題

《国語》

【成果】＜良くできていたもの＞

- ・相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。
- ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。
- ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。
- ・考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解すること。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文

の中で正しく使うこと。

- ・目的に応じて、必要な情報を見付けること。
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

【課題】＜できてなかったもの＞

- ・引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力。
- ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使う力。
- ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力。

【国語における主な改善策】

- 引用の仕方を確認し、事実と意見を分けたり、目的に応じて引用したりできるようにする。
- ・引用カードなどを用いて、スモールステップで引用する力を付けていく。
- ・説明する文章から、文末表現や語彙などから、文の使い分けの方法に慣れさせ、習得させていく。
- 思考ツールなどを用いて、情報や語句を整理して考えられるようにする。
- ・情報と情報との関係を視覚的に捉えられるように、様々な思考ツールを経験させ、関係の選択肢を学ぶとともに、活用できるようにさせる。
- ・文法の型をドリル学習的に学び、知識・技能を伸ばした上で、応用できるようにする。
- 短い文章を読んで要約し感想をまとめる。
- ・他者にわかるようにまとめることが難しい場合もあるので、理解したことと考えたこととの関係がわかるように型をつくる。また、書くことの学習では、友達と助言し合いながら、自分の書いた文章を何度も見直

したり、書き直したりできるようにする。

《算数》

【成果】＜良くできていたもの＞

- ・体積の意味についての理解。
- ・数を四捨五入して、概数で表すこと。
- ・単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つのどちらの方が混んでいるのかについて判断すること。
- ・小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくること。
- ・整数と小数の減法の計算をすること。
- ・帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ること。

【課題】＜できなかったもの＞

- ・二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる力。
- ・基準量、比較量、割合の関係が正しく読み取る力。
- ・日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて表現する力。
- ・図形領域。

【算数における主な改善点】

- 表や数直線に日常的に関わらせ、その読み取り方や活用の仕方を習得させる。
 - ・文章問題を解く際に、数直線を使わせて、そこから立式したり算数以外の場面でも二次元表などのツールを活用したりして使い方に馴染ませる。
- 答えの根拠や理由となることを省かずに記述させたり、教師から問うたりする。
 - ・途中の式を書かせる。式の意味を問う。考えたことをペアで話し合いながら共有する。
- 公式や答えを導き出す過程を明らかにする。
 - ・公式を言葉で覚えさせるのではなく、意味を理解させる（図や言葉と関連させる）。
- 表や図に表し視覚的に整理する力をつける。
 - ・数字だけではイメージしづらい数に対して、数直線や図を用いて、関係性を理解させる。

国語は正答率が高かったです。正答数が4問以下の児童がいなかったことから、学力の底上げができていたことが読み取れました。算数も10項目中5項目で県平均を上回っていました。

個人の分布を見ると、どちらも正答率の高い児童と低い児童の間に差がありました。しかし、無回答率が大変低く、最後まで解答を諦めない姿勢を身につけられていることは成果です。一方で、資料から、問題の意味を理解し、適切に資料を見て、条件に合った解答をしていない児童が多かったとは課題です。問題を解くにあたり必要箇所へ印をつけながら読む、書いた後に、条件を満たしているか確認をするなど、粘り強く問題に向き合えるように指導をしていきます。

2 質問紙調査から明らかになった本校児童の特徴と改善点

【成果】＜評価の高かったもの＞

- ① 総合・学級活動・道徳への意欲が高い。
- ② タブレット端末での操作能力が高い。
- ③ 心理的安全性が高い。
- ④ 読書習慣が身についている。
- ⑤ 国語の学習に対して意欲的である。

【課題】＜評価の低かったもの＞

- ① 算数・英語への苦手意識がある。
- ② 生活習慣にやや課題がある。
- ③ 社会貢献への関心がやや薄い。

成果については、これまでの学びの積み上げが評価につながっていると捉えています。課題の①については、日常との関連に目を向けさせ、その有効性を実感できるような指導を継続していきます。②についても引き続き、動画視聴やゲームなどの長時間利用のリスクや、脳への影響、情報モラルなどの指導をしていきます。ご家庭でもハウスルールなどを再度確認していただき、ご指導をぜひよろしくお願いいたします。③については、引き続き道徳の授業や行事への取り組み、ボランティア活動等を通して、自分の活動が地域や社会でどのように役立っているのかを知るとともに自分のことから視野を広げ、社会の一員としての自覚を育てていきます。

3 まとめ＜今後の取組へ向けて＞

この調査で明らかになった課題は、全学年で共有し指導・改善を進めてまいります。各ご家庭におかれましても、引き続きのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。